

この度は当製品をご購入頂き誠に有難うございます。
ご使用に際しましては取扱説明書をよくお読み頂きます様宜しくお願い致します。

【仕様】

- 容量・・・500ml
- 使用圧力・・・0.27～1.03MPa
- グリース充填方法・・・カートリッジグリース(筒形) 手詰め
- エアー吸入口・・・1/4" NPTメネジ
- カプラー付フレキシブルノズル(1/8" NPT × 750mm)
- 連続吐出タイプ
- グリースタンク回転式(360°)

【各部の名称】



⚠ 使用上の注意

極度な圧力は、ノズルやグリースホースの破損の原因となります。
グリースガンを操作中は、手をノズルから離して下さい。
特に、グリースポンプ用ニードル等での作業中は十分注意して下さい。
製品は、定期的にメンテナンスを行い、ご使用前には必ず全ての接続箇所がしっかり締まっているかをご確認下さい。
作動圧力が高いと、部品の一部が故障した際、グリースが飛び出る可能性があります。損傷のない部品のみをご使用下さい。
グリースタンクを取扱い中は、タンク開口部を人に向けしないで下さい。
圧力のかかっているホースは絶対に触らないで下さい。
吐出口を人に向けしないで下さい。ホースは劣化しやすいものです。
目安として、2年以上経過したホースは絶対に使用しないで下さい。
ホースを無理に曲げようとしたり、ひねったりしないで下さい。
怪我をした際は、直ぐに医師の診断を受けるか、手当てをして下さい。



警告

ご使用前に必ずお読み下さい。下記事項をよく読み、理解し、必ず守って下さい。
グリースガンは、推奨される方法でのみ使用して下さい。
どんな道具・工具も、使い方を誤れば機能しません。
グリースガン使用中に怪我をしない様、下記の安全上の注意と規則に従って下さい。
■用途以外の目的に使用しないで下さい。
■無理に力を加えて使用しないで下さい。又、ハンドルを延長する等の行為もしないで下さい。
■作業に適した服装をして下さい。プカプカの服や宝石等は身に付けしないで下さい。
グリースガン使用の際は、保護用手袋、又、滑り止めの靴を履く事をお勧めします。
作業保護の為、耐衝撃性の安全メガネ、安全ゴーグル及び耐化学薬品保護ゴーグル、フェイスシールドマスク、安全靴、アームプロテクター、エプロン等の保護用具を必ず使用して下さい。長髪の方は、キャップ等を被って下さい。

- 作業環境は、足場の良い、また明るい場所で行って下さい。
- マスクを着用して下さい。危険ガスや煙・蒸気の吸入を避ける為にも適切なマスクを着用して下さい。
- 集中して作業を行って下さい。
疲れている時や何らかの薬物(風邪薬等)の副作用が生じている際には、グリースガンの使用を控えて下さい。特に、単調な作業時は十分注意して下さい。
数百回も同製品を操作しているかもしれませんが、安心感こそが大変危険です。
慎重、且つ、指示に従って使用しなければ、時に危険なツールとなりえます。
- 子供や部外者に操作させないで下さい。
- グリースガン使用前に、適切な作業現場であるか、また適切に作動するかどうかをご確認下さい。
エア供給元からグリースガンまでの接続箇所がしっかりと締まっているか、損傷箇所がないかを充分チェックし、異常がなければグリースガンは適切に作動します。
もし部品の破損等機能上に影響が有り得る箇所があれば、修理または部品交換を行って下さい。
- グリースガンをより良く安全に使用する為にも、手入れを行って下さい。
定期的に点検・メンテナンスを行い、油を注したり部品交換を行って下さい。
決して圧力がかかっている時に修理を行ったり、又、分解をしないで下さい。
- 保管に際しては、子供の手の届かない所、又、乾燥した場所で保管下さい。
- 改造はしないで下さい。必ず正規の技術者によってのみ修理を行って下さい。
- グリースの取り扱い、噴射、及び廃棄に関しては、常にご使用の地域の法律や条例を確認する様にして下さい。
噴射したグリースは正しく廃棄して下さい。街中の排水溝、住居の下水管、及び裏庭等に廃棄するのは止めて下さい。正しい廃棄方法に関しては、ご使用の地域の地方自治体の廃棄物管理担当者に問合せ下さい。
グリースガンが安全な状態にあるかどうか少しでも疑わしい場合には、使用を控えて下さい。

<操作方法>

本製品は使用圧力 0.27～1.03MPaにて作動するよう設計されております。
エア圧力が低くなれば、グリースガンの性能も引き下げられますが、
1.03MPaを超えてしまうと部品等の損傷、又、怪我をする恐れがあります。



警告 綺麗な乾燥したエアを使用して下さい。水分や埃は本体の寿命を著しく縮めます。
エアは綺麗且つ乾燥したものを供給し、油を注して下さい。
コンプレッサータンク内に溜まった水分を排出して下さい。
フィルター／レギュレーター／ルブリケーターの接続・取付をお勧めします。
接続に関してはグリースガンに近い所へ行って下さい。

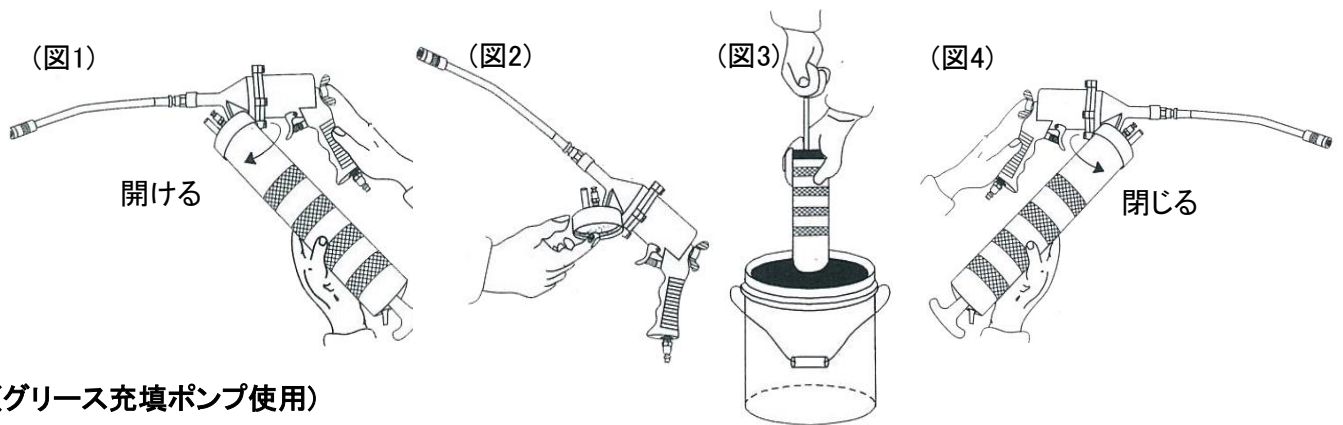
【グリースのセット方法】

(吸入式)

1. グリースガンからグリースタンクを外します。(グリースタンクを反時計方向へ回して下さい) (図1)
ヘッドにグリースを詰めて下さい。(図2)
2. グリースタンクの口を、グリース容器の中へ挿入します。(図3)
3. グリースの中へグリースタンクの口を挿入しながら、グリースハンドルをゆっくり引いて、
タンク内へグリースを吸い込みます。
※空気が咬み込んだりしない様に注意して下さい。
4. グリースハンドルが完全に伸びたら、ピストンロックでハンドルは固定されます。
5. グリースタンクに付いた余分なグリースを取り除き、グリースタンクをヘッドに取り付けます。(図4)
6. ピストンロックを解除します。グリースハンドルがタンク内へ戻り、押し込まれていきます。
7. グリースガンに装填をします。
(装填とは、グリースガンのポンプ機構からエアを抜いて、グリースを入れる行為を指します。)
この作業は、グリースガンへ装填する際、タンク内に閉じ込められた
エアを追い出すのに非常に重要な作業です。



注意: 潤滑油におけるエア咬みは、レバー式グリースガン等の機能を失わせる原因となります。
エア抜きバルブやトリガーを引いて、しっかりエアを抜いて下さい。



(グリース充填ポンプ使用)



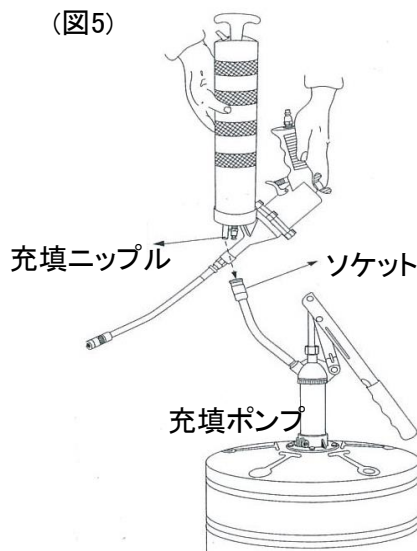
警告

充填ニップルは、ポンプのカプラーに接続します。
 カプラーがなければポンプは機能しません。
 グリースガンには低圧の充填ニップルが装備されておりますので、
 高圧ニップルと付け替えないで下さい。
 過度な圧力による使用は怪我の原因となります。その際の責任は負いません。

1. 綺麗な布で充填ニップルを拭いて下さい。
2. グリースハンドルをグリースタンク内へ完全に押し込んで下さい。
3. ポンプのソケットへ充填ニップルを挿入し、グリースハンドルを伸ばして(引いて)下さい。(図5)
4. グリースタンクがグリースで一杯になるまで、ポンプを作動させて下さい。
 グリースタンク内が一杯になると、グリースハンドルは完全に伸びます。
5. ポンプのソケットから充填ニップルを外して下さい。
6. ピストンロックを解除して、ハンドルのロックを解いて下さい。
 グリースタンク内へハンドルが戻り、押し込まれていきます。
7. グリースガンに装填をします。
 (装填とは、グリースガンのポンプ機構からエアを抜いて、グリースを入れる行為を指します。)
 この作業は、グリースガンへ装填する際、タンク内に閉じ込められた
 エアを追い出すのに非常に重要な作業です。

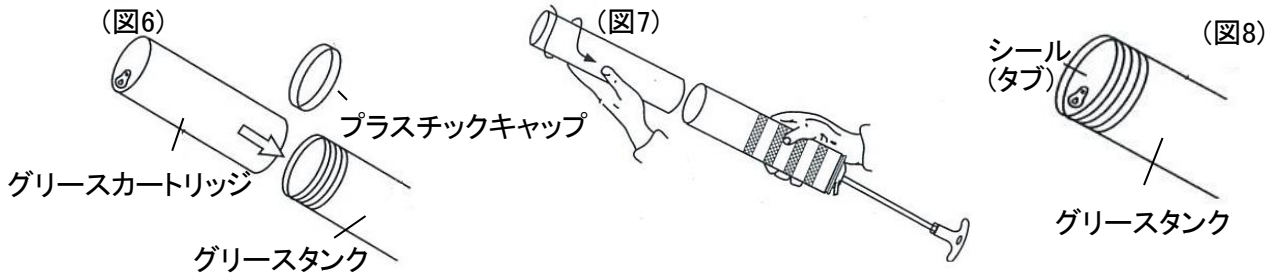


注意: 潤滑油におけるエア噛みは、レバー式グリースガン等の機能を失わせる原因となります。
 エア抜きバルブやトリガーを引いてしっかりエアを抜いて下さい。



(カートリッジグリース)

1. グリースガンからグリースタンクを外します。(グリースタンクを反時計方向へ回して下さい。)(図1)
ヘッドにグリースを詰めて下さい。(図2)
2. グリースハンドルを引いて下さい。
ハンドルが完全に伸びると、ピストンロックが機能しハンドルはロックされます。
3. カートリッジグリースのキャップを外し、グリースタンクへ挿入して下さい。(図6)
※キャップを外した方を頭にしてグリースタンクへ挿入して下さい。
4. カートリッジグリースのタブがグリースタンクの端と重なるまで、
カートリッジグリースを押し込んで下さい。(図7)
その後、カートリッジグリースのタブを引いて開けて下さい。(図8)
5. グリースタンクをヘッドへ戻し、しっかりと閉めて下さい。(図4)
6. ピストンロックを解除し、ハンドルのロックを解いて下さい。
グリースタンク内へハンドルが戻り、押し込まれていきます。
7. エア抜きバルブを押して、グリースタンク内のエアを完全に排出して下さい。



【トラブルシューティング】

問 題	考えられる原因	解決策
グリースが出ない	1. カートリッジグリース及びグリースタンク内にグリースが入っていない 2. グリースガンのヘッド部分でエアが咬んでいる	●カートリッジグリースの交換、グリースタンクへグリースを充填する ●エア抜きバルブを押し、又、グリースハンドルを押してエアを排出して下さい
カートリッジグリースが完全に空にならない(全て吐出しない) 又、カートリッジグリースが完全に無くなっているかどうか分からない	ロッドのタブがラバーピストンと引っ付いている	●ロッドとラバーピストンを繋いで下さい ●グリースが前方へ動くまでタンク内へハンドルを押して下さい ●グリースタンクのキャップからハンドルの先端までの距離を測る ●測定値が1 3/4”(44.45mm)以上であれば、カートリッジグリースは空になっていない ●もし完全に無くならないのなら、グリースを前方へ押し出した後、ラバーピストンからロッドを外して下さい
グリースがタンクやヘッドから漏れる	グリースタンクとヘッドがしっかりと閉められていない。 ヘッド内側のラバーが損傷、もしくは、無くなっている	●グリースタンクとヘッドをしっかりと閉める 又、ラバーを交換する。
ノズルやヘッドからグリースが漏れる	1. ヘッドとノズル、又、ノズル先端のカプラーがしっかりと閉められていない 2. 充填ニップルが緩んでいる 3. エア抜きバルブのリングが劣化している 4. ピストンが劣化・損傷している、ヘッドに穴が開いている	●ヘッドとノズル、ノズルとカプラーをしっかりと閉める ●充填ニップルをしっかりと閉める ●リング、もしくは、エア抜きバルブを交換する